

JUKI 次世代見据えた実装機

2種類のヘッド 変種変量生産に対応 双方の長所融合

JUKIは電子部品実装技術の総合展「JISSO PROTEC 2024」(主催：日本ロボット工業会、会期12月14日)に、新製品の高速フレキシブルマウンター「LX-8」を展示した。この実装機は2種類のヘッドの最適配置により変種変量生産に対応、高い面積生産性を誇り、次世代を見据えたフラッグシップモデルとなる。

「JISSO PROTEC」で展示

LX-8は待望の新たな効率性、耐久性の良品として、今回の出展があり、LX-8の展では中核に位置付け、最大の特長であるヘッド交換が自由に行える点も評価していただいた。JUKIオートメーションシステムズの点も評価していただいた。LX-8は2ヘッド仕様のヘッドは20本のノズルで極小部品の安定した取付・搭載を実現する「プラットフォーム」に対応する。併せてフ



永嶋社長とLX-8



永嶋社長とLX-8

新製品は2種類のヘッド双方の長所を一つのヘッドに融合することに成功。制御が異なるヘッドの組み合わせにより生産品目の変更にも柔軟に対応する。併せてプラットフォームはクラス最高の最大160

本まで搭載可能とし、少量多品種、変種変量の生産ライン構築を支援。クラス最高の高速搭載と高い面積生産性も実現。筐体(きよら)は幅1600×奥行1900×高さ1440の外形寸法で最適搭載速度10万/000CPHを誇る。設置面積の縮小というメリットは他機種と組み合わせた柔軟なライン構築も促進する。ユーザーインターフェイスも進化させ、タッチパネル方式を採用したスマートフォンのような操作性を提供する。このユーザーインターフェイスは、今後の製品で同社のプラットフォーム。他にはない、高い技術

も標準搭載していく考えだ。高い技術で差別化 永嶋社長は「優位性を持ち、差別化できる製品が必要」と、LX-8開発の狙いを説明する。そこにはSMTマウンターの市場動向への視座がある。マウンター市場では日本勢が世界的に高いシェアを獲得している。一方、近年は中国のメーカーがプレーヤーとして登場しており、今後追従してくる可能性は無視できない。永嶋社長は「日本のメーカーとして進むべき道を見極める必要がある。模倣しにくい、高い技術を追求

すべきと説明する。LX-8はJUKI産業機器の技術を集結し、設計をゼロベースから見直したフラッグシップモデル。2種類のヘッドを採用した新製品は7月から受注を開始する。同社は世界的な販売網を持ち、メンテナンス面を重視してきた。保守点検はもとより、トラブル発生時には迅速に対応して生産現場を支える構え。世界市場の動向に合わせて販売・サービス体制を整え、高性能のLX-8をグローバルに提供していく。